

1日(日)・7日(土)～9日(月)・14日(土)・15日(日)・
21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)

日没から午後9時30分まで(晴天時のみ)

星空通信

2023年10月号

☆用語解説☆

りゅう
留…惑星が順行⇔逆行へ変わる時、一時停止して見えること

がいごう
外合…地球—太陽—内惑星と並んだ時のこと

かんる
寒露…夜が長くなり、露がつめたく感じられるころ。

- 6日 下弦
- 8日 寒露
- 15日 新月/金環日食(日本では見られない)
- 20日 水星が外合
- 22日 上弦
オリオン座流星群が極大
- 24日 金星が西方最大離角
- 29日 満月/部分月食

今月の惑星情報

水星

月初は日の出前の東の低空に位置。中旬以降は徐々に高度を下げる。20日に外合、以後は日の入り後の南西の低空に位置。見かけの位置が太陽に近い、観察は難しい。

金星

日の出前の東から南東の空に見え、24日西方最大離角。明るさは-4.7等～-4.4等。

火星

月初はおとめ座を東に移動、下旬にははてんびん座に移る、見かけの位置が太陽に近い、観察は難しい

木星

おうし座を西に移動。日の入り後に東の空に昇り、真夜中は南東から南の空高く見える。明るさは-2.8等～-2.9等。

土星

みずがめ座を東に移動。宵の南東から南の空の下に見え、明るさは0.6等～0.7等。



10月～12月の星座



秋の星座は明るい星が少ない。天頂近くに見える「ペガサスの大四辺形」が他の星座を探す目印になる。ペガサス座の隣にはアンドロメダ座が見られ、十分に暗い空なら肉眼でもアンドロメダ銀河(M31)が見られる。双眼鏡などで観察してみよう!

南の空で明るく輝くのは、木星、土星と南のうお座の1等星フォーマルハウスだ。早めの時刻には冬の大三角の星が、やや遅めの時刻には冬の大三角の1等星も観察できる。

10月のオリオン座流星群、11月のしし座流星群、12月のふたご座流星群と、流星群が見られる時期でもある。